平成15年
1月15日号
No.1117
● 毎月5・15・25日発行

広報 かもがわ

● 編集発行・鴨川市役所秘書課
広報広聴係
● 電話・0470(93)7827
● FAX・0470(93)7850
● 鴨川市横渚1450
● 郵便番号・296-8601

“鴨川温泉”へ名乗り

㈳鴨川市観光協会

観光地の魅力アップに

観光地の魅力に温泉を取り入れ、大いにPRしていこうー。花や海などに加え、新たに温泉を目玉とする観光地づくりが、㈳観光協会を中心に進められています。これは、市内のホテルや旅館が共同出資し、打墨の金山ダム奥地にある源泉の開発を行うというもので、今年四月からタンクローリーによって各宿泊施設へ温泉が届けられます。これに先立って宿泊業関係者の皆さんにより、首都圏や関東近県に向け、「鴨川温泉宣言」と題したPR活動が始められています。

市内では、すでに、独力で温泉を採掘した七か所の施設が平成十二年秋に「温泉連絡協議会」を発足させPR活動を展開するとともに、宿泊客の皆さんへ、それぞれの特色ある温泉を提供しています。

今回は、温泉の活用を希望した市内十五か所のホテルや旅館の共同出資により事業化にこぎつけたもので、現在、社団法人・鴨川市観光協会が主体となって〝開湯〟に向けた準備が着々と進められています。

源泉の場所は打墨にある金山ダムの北西に約一・五キロ㍍ほど奥に入った所。鉱泉が自然に湧き出し、これまでほとんど利用されずにいたもので、事業を進めるにあたっては、打墨入会山林管理組合や関係機関の了解を得たり県の温泉審議会での許可を得たりするなどの手続きを済ませています。

㈳観光協会で、この源泉の湧き水の調査を研究機関に依頼し分析を行ったところ、硫黄成分を含む「単純硫黄冷鉱泉」であることが分かっています。

「温泉のまち」鴨川をPRする、のぼり旗

金山ダム奥

源泉から1日約30トンが湧出

源泉から出る、この鉱泉は一日あたり約三十トンあまりが見込まれます。

温泉法では、地中から湧き出る二十五℃以上の温水を温泉としていますが、二十五℃以下であっても十九種類の物質（遊離二酸化炭酸、水素イオン、総硫黄、ラドンなど）のうち、一種類以上が規定量を満たしていると、温泉として認められるものです。

4月開湯

タンクローリーで宿泊施設へ 年間を通じた来客を期待

計画では、鉱泉を約十三㌔上の道までポンプアップし大型タンクに貯水。タンクローリー（二㌧）を使って各宿泊施設へ届けます。

これにより、市内宿泊施設の約三分の二のお風呂が温泉を活用することになり、年間約三百万人訪れる観光客に新たな魅力を提供するとともに、近ごろの温泉ブームにも応え年間を通じた誘客につながるものと期待されています。

事業費は現地までの道路の補修やタンクローリーの購入、大型タンクの設置のほか、PR活動など四千万円以上が見込まれています。

市でも、まちの活性化や経済振興をめざし、財政的な支援を考えています。

この〝温泉〟を活用して多くの来客をと、「鴨川温泉宣言」と題するポスターやのぼり旗が制作されるなど、㈳観光協会や宿泊業関係者の皆さんによるPR活動も始まっています。

なお、市では入湯税（温泉入浴時に百五十円）をいただいていますが、この事業による新たな税収が見込まれ、この目的税を貴重な財源として、観光振興や環境衛生の向上へ役立てていきます。

とじて保存しましょう

市町村合併

安房地域任意協議会が解散 新たな合併方策を探る

第七回目の「安房地域市町村合併任意協議会」が、昨年十二月二十五日に三芳村農村環境改善センターで開催され、同協議会の解散が決まりました。

この一月二十三日に行われる第八回任意協議会を最後に正式解散となります。

合併議論の経過については、昨年三月に安房地域の各市町村長・議会議長、地元選出の県議会議員が県庁を訪問し、知事に対し「合併重点支援地域」の指定を要請し指定を受けました。

その後、市町村長や議会代表、合併担当職員などによりさまざまな会議で協議が重ねられ、九月四日には「安房地域市町村合併任意協議会」が発足。以来、計七回開かれた協議会の中で合併の枠組みについての議論が活発に交わされました。

市では、市議会議員による合併調査特別委員会の建議や各地区での座談会の意見をもとに、合併のメリット、行財政基盤強化の必要性、さらに地域の歴史的なつながりなどを考え、安房地域での一本化が望ましいという認識のもとに任意協議会に臨んできました。

しかし、全ての市町村長、議会ともに市町村合併には賛成という立場であるものの「市域が広くなりすぎる」、「各市町村の財政状況に格差がありすぎる」などの理由から、当面は顔の見える範囲での合併を推進すべきではないかとの意見もあり、その結論として、安房一本化の意見統一を図ることは困難となりました。

地方分権の新時代を迎え市町村合併は避けて通れないとする考えは、各市町村共通の大きな課題です。

今後は、それぞれの市町村で合併を推進していくことになりますが、市では、市民皆さんの理解を頂きながら将来の新しいまちづくりに向けた最善の合併方策を探っていきます。

参加者募集

中国・三亜市への友好訪問団 申し込みは市国際交流協会へ

市国際交流協会では、中国海南省の観光都市・三亜（さんあ）市との友好親善や視察を目的とした訪問団の参加者を募集しています。

これは、米国・マニトワック市との国際姉妹都市提携が今年で十周年を迎えることをきっかけに、近隣のアジア諸国とも交流を図っていこうというものです。

三亜市は、中国の最南端に位置する海南島の観光リゾート都市。熱帯気候に属する同市は年間を通じて気候が温暖で、鴨川市と同様に観光業や農水産業を主要産業としているほか、国際交流にも積極的です。

どうぞ皆さん、この機会に、ぜひご参加ください。

■日程　二月十九日（水）～二十三日（日）　四泊五日

■参加費　十五万円程度（航空運賃、宿泊代ほか）

■募集人員　二十人程度

■行程・視察先など

▽二月十九日（水）＝成田発～広州着・市内観光～（国内線）～三亜市（泊）

▽二十日（木）＝三亜市政府訪問、市内視察（泊）

▽二十一日（金）＝三亜市内の施設見学～（バス）～海口着（泊）

▽二十二日（土）＝海口発～（国内線）～香港着、市内観光（泊）

▽二十三日（日）＝香港発～成田着、市役所へ

■申し込み　パスポートの写しを持参のうえ、一月二十四日（金）までに市企画振興課内の国際交流協会事務局（☎㉝5931）へ

納税はお早めに　1月は市県民税第4期と国民健康保険税第7期の納期です（市税務課）